

**カカオポリフェノールの継続摂取が、閉経後女性における糖代謝改善の可能性と、血圧とコレステロールの低下を確認**

1月17日 日本高血圧学会の学会誌に論文掲載

学校法人東京医科大学（理事長：矢崎 義雄）と株式会社 明治（代表取締役社長：松田 克也）は、2016 年に実施した共同研究において、カカオポリフェノールの継続摂取が、閉経後の女性において、インスリン抵抗性<sup>\*1</sup>を改善する可能性と、血圧と悪玉コレステロールの改善効果を確認しましたが、当研究成果が2019年1月17日に、日本高血圧学会の学会誌(欧文誌)であるHypertension Researchに掲載されました。

論文の内容は、以下の通りです。

**【論文内容】**

タイトル：Gender difference in the effects of cacao polyphenols on blood pressure and glucose/lipid metabolism in prediabetic subjects: a double-blinded, randomized, placebo-controlled crossover trial.

（境界型糖尿病(糖尿病予備軍)におけるカカオポリフェノールの血圧および糖・脂質代謝に対する影響の性差)

目的・方法：45歳以上69歳以下の男女22人をランダムに2グループに分け、1つの群には被験食品であるカカオポリフェノール抽出物を含むタブレット<sup>\*2</sup>を、他方の群には対照食品としてカカオポリフェノール非配合のタブレットを、それぞれ毎日4週間継続摂取していただきました。さらに2週間の非摂取期間を空けた後、被験食品と対照食品を入れ替えて、同様に4週間継続摂取していただき、各試験食品摂取前後の血圧や糖・脂質代謝の指標の変化について検証しました。

研究主体：学校法人東京医科大学、株式会社 明治

試験デザイン：プラセボ対照二重盲検クロスオーバー比較試験

検査項目：血圧、血液検査（空腹時血糖値・インスリン濃度、HOMA-IR、LDL-コレステロールなど）

試験期間：2016年3月～9月 各4週間 ウォッシュアウト：2週間

試験食品：カカオポリフェノール抽出物を含むタブレットあるいはカカオポリフェノール非配合のタブレット

被験者：22人（男性13人・女性9人）

結果：被験者全体では有意な差は認められなかったものの、閉経後の女性のみを層別解析で、被験食品摂取群では対照食品摂取群に対し、以下の変化が確認されました。

1. 血中のインスリン濃度と血糖値がともに高い場合は、インスリン抵抗性の発現が疑われます。今回の共同研究において、カカオポリフェノールの摂取前後で、空腹時インスリン濃度が低下する傾向が認められました。また、カカオポリフェノールの摂取前後で、インスリン抵抗性の指標であるHOMA-IR<sup>\*3</sup>が低下する傾向が認められました。これらの結果より、インスリン抵抗性が改善する可能性が示唆されました。
2. カカオポリフェノールの摂取前後で、最高血圧・最低血圧が有意に低下しました。
3. カカオポリフェノールの摂取前後で、悪玉コレステロールとされるLDL-コレステロールが有意に低下しました。

※1: インスリンの働きが低下し、糖の代謝が悪くなっている状態。

※2: 2014年に、愛知県蒲郡市、愛知学院大学、株式会社 明治の産官学共同で実施した「チョコレート摂取による健康効果に関する実証研究」にて使用した、カカオ含有量72%の高カカオチョコレート25gと同等のカカオポリフェノールの主要成分を含んだタブレット。

項目		被験食品	対照食品
カカオポリフェノールの 主要成分	カテキン・エピカテキン プロシアニジン B2 プロシアニジン B5 プロシアニジン C1 シナムタンニン A2	83mg	非検出

※3: 空腹時の血中インスリン濃度と血糖値から算出される、インスリン抵抗性の簡便な指標。

**[この件に関するお問い合わせ先]**

学校法人東京医科大学 総務部 広報・社会連携推進課

〒160-8402 東京都新宿区新宿 6-1-1 TEL:03-3351-6141(代表) FAX:03-6302-0289

株式会社 明治 広報部

〒104-8306 東京都中央区京橋 2-2-1 TEL:03-3273-0700 FAX:03-3273-0900

メールアドレス:meiji.kouhou@meiji.com